

大障教ニュース

大阪府立障害児
学校教職員組合
大阪市天王寺区
東高津町7-11
府教育会館704号
(TEL)6765-8904
(FAX)6765-8905

府教委

2020年度人事異動方針を発表

希望と納得に基づく公正で 民主的な人事異動の確立を!

介護・保育・健康、指導の継続性など切実な事情を尊重せよ

府教委は、9月4日の校長会で、2020年度の「人事取扱要領」等について説明を行いました。府教委の説明によると、2020年度の「人事取扱要領」は、2019年度の「人事取扱要領」からの大きな変更はなく、「直轄強制異動」と呼ばれる府教委人事の本質は何ら変わっていません。大障教は引き続き、障害児教育の専門性の低下や、教職員の業務負担増につながる人事異動や、人事を通じた教職員の管理強化には反対の立場を貫き、「本人の希望と納得にもとづく人事」「公正・民主的な人事」を求めてとりくみます。

1. この間の「人事取扱要領」に関する経過

教員人事について府教委は、1998年度当初人事において「新規採用以来現任校4年以上勤務者」「現任校10年以上勤務者」を異動対象者としてきました。それ以後、年限基準を段階的に短縮するなど、様々な改悪を重ねてきました。2011年度当初人事では、府立学校を7つのグループに分け、障害児学校の専門性の否定につながる「新規採用後3校目までに、原則として異なる3つのグループを経験するものとする」との大改悪を行うと同時に、「予定者通知」の前に実施されていた「候補者

通知」をなくしました。2013年度には、「1校における在籍期間」として「原則15年」を明記するなど、府障教(当時)の反対を押し切つて、「人事取扱要領」の改訂を強行しました。

教職員人事(実習教員、給食調理員、技師・技能員)についても、2003年度当初人事より「現任校7年以上」、08年度当初人事からは「4年以上」を異動対象者としました。また、12年度当初人事より、スクールバス乗務員を人事取扱要領の適用としています。

2. 人事異動に関する大障教の基本的考え

直轄強制人事異動のねらいは、教育行政が、学校や教職員への管理と支配をいっそう強め政府や府教委が決めた教育政策を学校に徹底することにあると大障教は考えています。そもそも人事異動とは、ゆきとどいた教育を推進するために進むべきものです。人事異動を特定の施策推進や教職員の管理統制・教職員削減・退職の強要などに利用することは許されません。

異動対象者の年限基準短縮に伴い、府立支援学校では、教職員の入れ替わりが早まり、引継ぎが十分にできない中で責任の重い仕事をこなざるを得ない実態が長時間過密労働を生み出す要因のひとつになっています。このように、人事異動の問題は、教職員の業務負担増に大きく関わってきています。大障教は「本人の希望と納得にもとづく人事」「公正・民主的な人事」が大原則だと考えています。

今年2月1日に行つた課別交渉で大障教は、人事異動により聴覚支援学校の専門性が低下していると訴えました。これに対して、府教委は「各学校における専門性等を踏まえ、各学校の円滑な運営体制を確保するという観点から、ヒアリング等を通じ、個々の事情についてもできる限り把握したうえで、校長の具申をもとに適切に行つてまいりたい」と説明しています。

3. 人事調書記入にあつての注意事項

人事調書は、人事異動を前提に作成されています。それを踏まえて記入しましょう。特記事項には、「異動希望はない」「肢体不自由校以外への異動は希望しない」など、自分の意志を明確に記入しましょう。特記事項に書き切れない場合、「別紙にて添付します」と記入し、添付書類を校長・准校長に提出しましょう。保育、介護や健康上の理由で、人事異動を「希望する」「希望しない」場合は、その内容をいねいに記入しましょう。人事調書の提出後に事情・希望が変わつた時は、速やかに学校長に申し出て、調書の差し替えをおこなひましょう。

4. 人事ヒアリングについて

校長・准校長による本人ヒアリングでは、あいまいな言い方は避け、自分の意志を明確に校長・准校長に伝えましょう。重要なことは「校長具申の内容」です。校長・准校長に対し、本人希望を尊重した校長具申を求めましょう。

昨年度は、3月1日に「異動予定者及びTRYシステム選考結果の通知」、3月8日に「異動内示(事務職員以外)」が行われました。府教委は現段階では、これらの日程について「昨年と大きく変わらない見込み」としています。

大障教ホームページアドレス <http://fc06331220171211.web2.blks.jp/> Eメール アドレス : fushoukyou_1@mtb.biglobe.ne.jp



重い扉を押しあげたら、
くらい道が続いて
めげずに歩いたその先に
知らなかつた世界♪

スピッツの「優しいあの子」の歌詞の一部で、連続テレビ小説「なつぞら」の主題歌だ。「なつぞら」には、様々な場面で「開拓者精神」がキーワードとして登場する。

戦災孤児の主人公「なつ」が、漫画映画会社に就職し、「一久さん」と結婚ののち、妊娠が判明する第百十九話で次の場面がある。それは、出産すれば仕事を辞めることが当然とされる風潮の中、「なつ」にとつて葛藤の場面。「一久さん」は次のように「なつ」に語る。

「たとえ契約社員になつたとしても仕事を続けたいなら好きなだけ続けたい。それでも、会社がその後の君の仕事を認めれば、次からは他の女性も働きやすくなるだろう。子どもを育てながらアニメーターを続けたいという闘いにもなる。君が、その道をつくるんだ。」
「二緒に頑張ろう。」

すでにある道を歩くことは簡単だ。しかし、「道」を切り開くことはそうではない。かつて、障害児学校では「元氣な赤ちゃんと産むことができない」とまで言われた時代があった。それを克服し、母性保護の制度を切り開いたのは、私たちの先輩だ。

要求に基づく運動で情勢を切り開く、「開拓者精神」を持ち続けることはたやすいことではない。しかし、「重い扉を押しあげ、めげずに歩いたその先に知らなかつた世界」が待っている。それは、これまでの運動と闘いが証明している。(久)

支援学校の実態を知らせ、学校増設運動をひろげよう

大障教 職場活動交流会

7月26日、大障教の職場活動交流会が開かれ、21分会から33人が参加しました。

今年の交流会は、今年度の大障教運動の重点課題である学校増設運動と組織の拡大・強化をテーマに、分会・専門部からの報告をもとに討議し、今後の学校増設運動の推進と分会活動づくりにつなげるという趣旨で、大障教執行部が、分会役員や青年部・女性部の役員のみなさんに呼びかけて開催した集まりです。

はじめに、5分会・1専門部からの報告がありました。

R教室転用、2階・3階の小部からの報告がありました。学部の24HR教室を確保するために、特別教室のH



21分会33人が参加

R教室転用、2階・3階の中部教室を展開し、小中高の3学部が混在するエリアが生じるなど、開校5年目にしてすでに「過大・過密」にある実態が報告されました。また、分会とPTAで懇談を持ち、新たな通学区区域変更の問題を共有することで、保護者の共感を得て学校増設署名に共同でとりくんだ経験が語られました。藤井寺支援分会からは、分会からPTA役員会に懇談を申し入れ、「知肢併置の拡大」など府教委の基本方針の中身を知らせることで、大多数の保護者の協力が得られ、肢体不自由校で署名活動を大きくひろげた教訓が語られました。また、署名

の意義を感じた青年教職員と一緒に署名活動にとりくむ様子も紹介されました。

富田林支援分会からは、開校当初の配置図と見比べることで、図画工作室・図書室・ホールなどのHR教室転用、10年前に建てられた新校舎の高等部エリアに小学部HR教室の設置など、「過大・過密」化が浮き彫りとなった現在の劣悪な教育条件の実態が報告されまし

た。今年度児童生徒数41

1人の八尾支援分会からは、慢性的な教室不足により、教室数に合わせたクラス編成が常態化している状況や、特別教室の調整が困難で学年で使える展開教室もなく、クールダウンや個別の指導も廊下でおこなう状況など、府内ワースト1の過大校の深刻な実態が紹介されまし

た。生野支援分会からは、校

内の教室不足に加え、次年度の通学区区域変更による児童生徒増に対応するため2台のバス駐車スペース増設のために運動場の一部をアスファルトにする工事がおこなわれる状況が報告されまし。青年部からは、

会「採用試験面接練習」な

どの独自企画のとりくみや、「facebook」を通して青年層に情報発信してつながらあう工夫を紹介し、各分会の青年に広げてほしいと訴えがありました。

交流会を通して、知的障

害支援学校のリアルな実態や父母との共同のとりくみの経験が参加者全員で共有されました。そして、最後に、5万筆集約を目標に、リーフレットを大いに活用して、大障教全体で支援学校増設運動のとりくみをすすめようという行動提起が確認されました。

女性部 夏の学習会

7月20日(土)、大障教女性部夏の学習会「地元大阪を知る」として、今年度は太陽の塔内部展示見学とホテルランチを企画し、14分会から29人(子どもを含む)の参加がありました。

まずは、ホテル阪急エキスポシティのランチです。早速、見た目にもステキな前菜が運ばれてきました。食事をしながら、職場のこと、組合のこと、近況などおしゃべりにも花が咲き、あっという間にランチタイムは終了しました。そして、太陽の塔のある万博公園へ向かいました。公園のゲートを入ると目の前にはど〜んと太陽の塔がそびえていました。思わず写真を撮りました。塔に近づいて行くとその大きさに圧倒されました。「地底の太陽」ゾーンから「生命の樹」ゾーンをガイドさんの説明を聞いて、ゆっくりと階段を上って見ていきました。「あー、こんなんやった!」と50年前を懐かしむ方、原生類から哺乳類へと進化していく33種類の生き物たちを見て思わず「すごいなあ」「かわいい」と言った方や、生命のエネルギーを感じ、「元氣もらいました」という方など、いろんな思いで見学を終えました。

今回は、太陽の塔見学の予定人数を超えてしまいました。お断りをした方々には本当に申し訳ありませんでした。次回もみなさんに来てよかったと言ってもらえる学習会にしたいと思います。

参加者の感想です!

- 太陽の塔の見学は、1970年の思い出がとても懐かしく、新しい発見もあり本当に楽しかったです。
- おいしいお食事をおしゃべりしながらただけてよかったです。他の学校の様子が聞けて勉強になりました。
- とても貴重な体験をさせていただきました。
- 今後も『大阪を知る』を続けてほしいです。
- ステキな企画ありがとうございました。みんなでワイワイ50年前を振り返ることができて楽しかったです。
- ずーっと行きたかった太陽の塔に入れて最高!子どもの頃の記憶が少し蘇ってきました。

